

ちょっと待って ひょっとしたら それって マイクロアグレッション(*) ではないの？

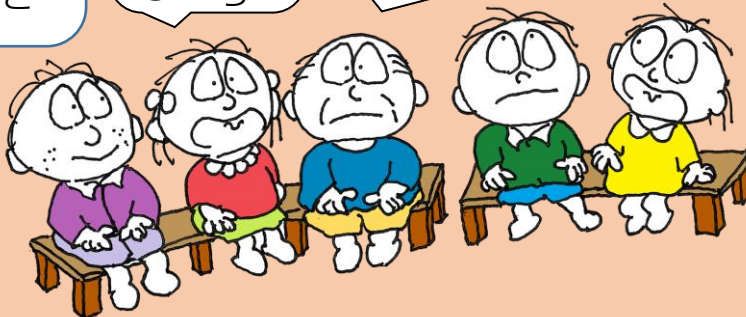
ブラジル人が引越してきたよ。サッカーが上手かな。(ア)

この間、その人とお話をしたけど、日本語がすごく上手だった。びっくりした。(イ)

お隣の子、確か男の子だったはずだが、最近、スカートをはき、髪を長くして女の子みたいになった。また、男に戻るかな。(ウ)

私の会社、以前から若い女性には「ちゃん」づけだよ。おかしくない？(エ)

そうかね。女性はかわいく、おしとやかに。そして、男性社員のサポート役。昔からそうになっている。(オ)



(ア) (イ) 外国にルーツをもつ人への理解不足。生まれた時から日本に住んでおられるかもしれない。

(ウ) 性的マイノリティへの理解不足。性的指向・性自認は自分でコントロールできない。

(エ) (オ) 誤ったジェンダー観から発した言葉。女性も男性も平等・対等であるという認識不足。

マイクロアグレッションってなんですか？

マイクロアグレッションとは、「小さな攻撃性」などといわれ、マジョリティ（多数派・特権をもっている側）が人種や性別、性的指向・性自認、障がいなど自分と異なる人やマイノリティ（少数派）に対して、無意識の偏見や差別心、知識不足によって、相手の心にダメージを与えてしまうような言動を言います。言い換えれば、他人を傷つける意図はないのに、結果として傷つけてしまうような言動を言います。

*マイクロアグレッション (Microaggression)

人と関わる時、相手を差別したり、傷つけたりする意図がないのに、相手の心にちょっとした影をおとすような言動をしてしまうこと。

1970年代にアメリカの精神医学者であるチェスター・ピアスが、職場においてアフリカ系アメリカ人に向けられる侮蔑的な態度をみて提唱した。2000年代にはコロンビア大学のデラルド・ウィン・スーによって再定義され、ジェンダー、性的指向にまで拡張した。



マイクロアグレッションの特徴は？

それはね。マイクロアグレッションの威力は、加害者にはそれが見えないことだよ。だから、相手のことをよく知らずに、無知や思い込みで発言してしまって、気づかないうちに相手を傷つけたり、差別したりすることが特徴だね。それによって、相手は知らぬ間に心の痛みが蓄積し、精神的に疲れてしまいます。



コップにスポイトで水（心の痛み）が一滴一滴、たまっていくような感じかな。水がたまっていけば、最後の一滴であふれてしまうね。自尊心を喪失し、気力が低下し、身体および精神の健康に悪影響を与えてしまうね。そうならないようにしないといけないね。



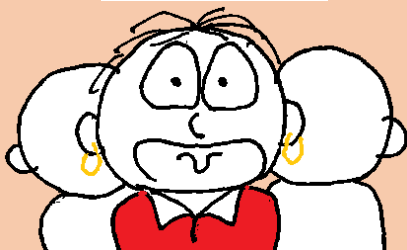
どうすればいいの？



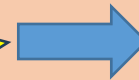
何が問題だったのかお互いが共有することだよ。そのためには、マジョリティ側が話し合いのできる雰囲気を作って、マイノリティ側が自分の体験や不快な理由を出しやすいようにすることだよ（心の痛みの言語化）。そのことによって、マジョリティ側はマイノリティ側が抑圧された背景やその歴史を学び、自らの思い込みに気づくことが大切だね。

マジョリティ側

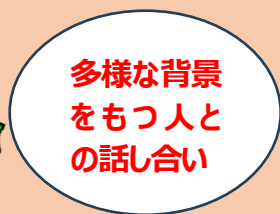
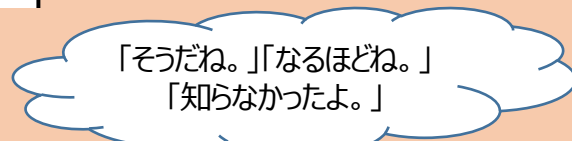
マイノリティ側



「そんなつもりはない。」
傷つけている自覚がなく、
相手を中傷する。



「自分は考えすぎかな。」
日常生活のなかで傷つけられ、
思い悩む。



自分の思い込みに、自分で気づくには限界があります。だから、他者の視点から学ぶことが必要です。他者とともに学ぶことが大切です。

参考：「日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション」 デラルド・ウィン・スー著 明石書店 2020

